

コンベンション報告

2025 年度 コンベンション報告 4

「青の都」ウズベキスタン——コンテンツ市場の可能性

丸茂 礼

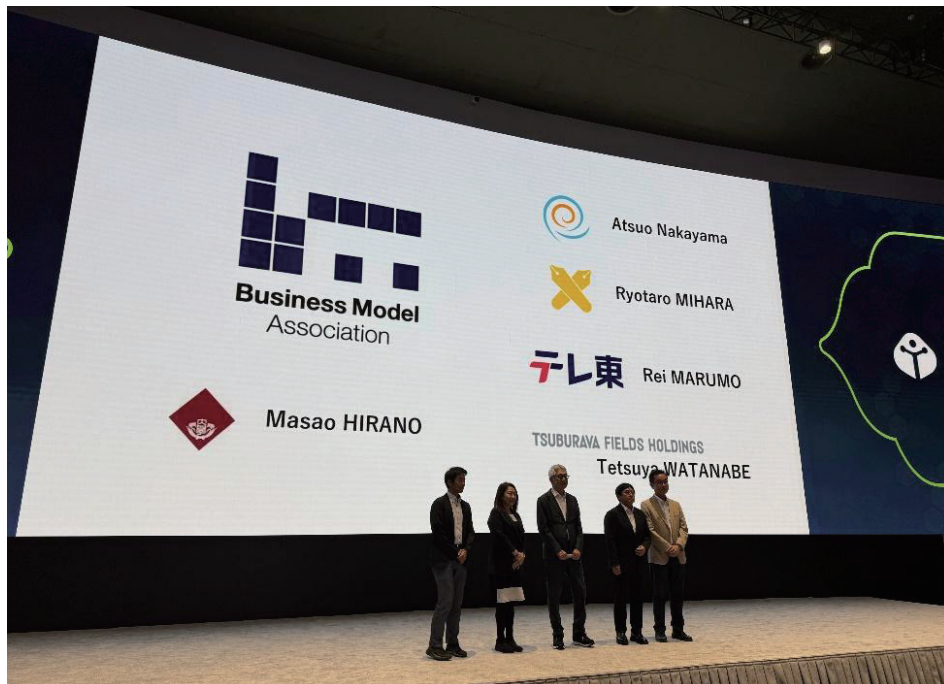
9月5日から9月11日まで、ビジネスモデル学会のみなさんと、ウズベキスタンに行ってきました。前会長の平野正雄早稲田大学ビジネススクール教授のもと、今回は、エンタメ系のプレゼンをする、ということで、昨年秋のビジネスモデル学会でトークセッションを行ったメンバー、エンタメ社会学者の中山淳雄氏、慶応義塾大学の三原遼太郎先生、円谷フィールドズホールディングスの渡辺哲也氏と共に、ウズベキスタン技術省、日本ウズベキスタンセンター、ITPark、ジャパンデジタル大学などを訪問しました。

ウズベキスタンは、二重内陸国で、隣接する国がすべ

て陸国という地球上でも稀有な国です（あともうひとつはリヒテンシュタイン）。そんな中、平均年齢が28歳、30歳以下が60%というとても若い国で、人口も増加傾向にあります。

今回は、ウズベキスタンに日本のアニメなどのコンテンツを普及させるお話と、ウズベク人材を日本のエンタメ業界で活用できないかというお話と、日本とウズベキスタンでコンテンツの共同制作ができないかというお話など、多岐にわたる意見交換をしてみました。

デジタル技術省では、大臣の顧問を務められている桜井明博氏からご説明をいただきました。現職のシェルマ



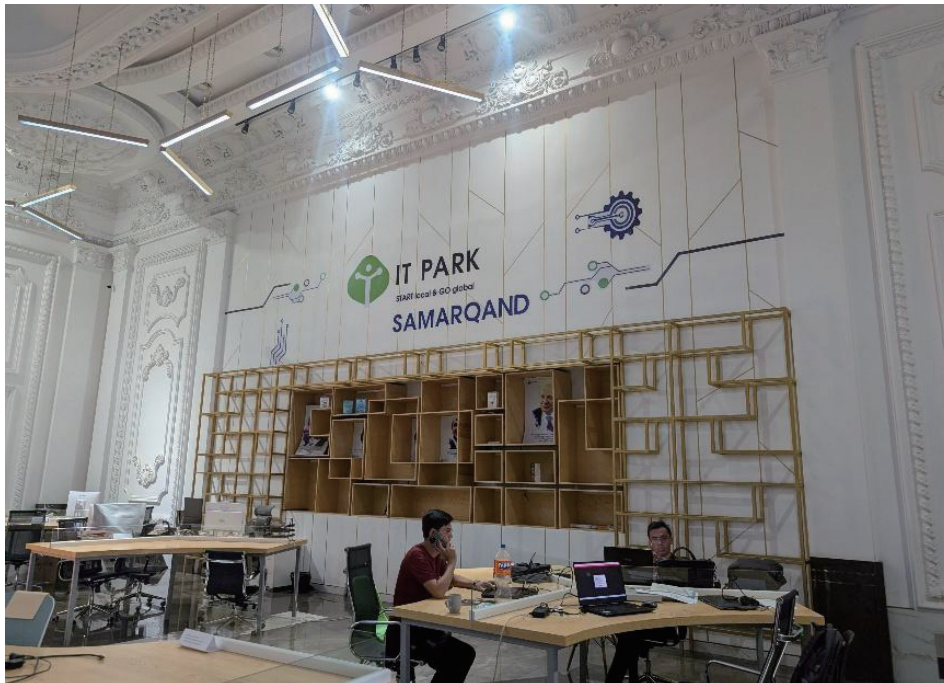
コンベンション報告



コンベンション報告



コンベンション報告



コンベンション報告

トフ大臣は、前職は教育担当大臣で、国民からとても人気のある方だそうで、若い人材の教育や IT エンジニアの育成に力を入れていらっしゃるとのこと。その後マクシュドフ副大臣と面談を行い、日本のコンテンツの説明と協働ビジネスやコンテンツの共同制作について意見交換を行いました。

文化庁映画制作庁では、映画のセットや撮影機材などを見学し、ウズベキスタン×日本合作映画「草原の英雄ジャロロフ」が第一弾、第二弾「桜の香り(仮)」というウズベキスタン人と日本人の恋愛映画の企画があることなどを伺いました。

Japan Digital University では、日本のアニメやコンテンツが大好きな学生と交流し、日本語を流暢に話す学生たちと楽しく交流できました。ウズベキスタンの人たちは、母国語のウズベク語のほかに、ほとんどの人がロシア語を理解しますし、英語も話せる人が多いです。さらに、日本や韓国のコンテンツも若い人たちには人気で、歴史的に民族、文化の交流地点だったことが伺えます。

IT PARK では、税制の優遇などの説明と、24 時間

365 日体制で世界中とつながり稼働しているというご説明がありました。日本企業の参入を増やしていくために、IT 人材の養成や IT 開発の拠点として国をあげて取り組んでいる様子が伺えました。

ITIC では、クリエイティブ協会会長から、ソフトウェア開発やデジタルプロジェクト支援などのサービスを提供し、ゲームの開発やアニメの開発も行っているという説明がありました。実際に制作したアニメーション映像を見せていただきました。

初めて訪れたウズベキスタン。テレビ「世界遺産」で観たことがある、青いタイルの建物の国、というぐらいしか知識はありませんでしたが、実際行ってみると、とても清潔。安全。そしてとても親日国で、人柄も穏やかで親切です。食べ物もおいしく、初めて行ったのにどこか懐かしく、ウズベキスタンという国が大好きになりました。

これからも、日本とウズベキスタンの交流、エンタメビジネス面での発展に、力を尽くしていきたいと思っております。

丸茂 礼

早稲田大学政治経済学部出身。1995 年テレビ東京に入社。番組宣伝部で「新世紀エヴァンゲリオン」などの宣伝を担当。2009 年～アニメ局で「妖怪ウォッチ」「ポケットモンスター」「NARUTO」など 30 作品以上にに関わり、2024 年～アニメ局長としてアニメ事業全体を統括し、2025 年 4 月株式会社テレビ東京ホールディングス アニメ・IP 戦略室長就任。

アニメビジネスでの実績 テレビ東京におけるアニメ事業で、宣伝・編成・製作・ライツビジネス・国際展開など、プログラママネージャーとして、企画・製作投資・編成調整・原作会社との交渉などを担当。

